

「2012年度松永沼隈地区医師会救急講習会」

日時:平成24年9月6日(木) 13:30~15:35
場所:松永沼隈地区医師会保健福祉センター2階
主催:松永沼隈地区医師会、福山地区消防組合

石巻市雄勝町の復興に寄り添い、想うこと
—震災に学び、災害に備える—

社会医療法人沼南会沼隈病院
内科部長 地域連携室長 藤原 恵

石巻市雄勝町の復興に寄り添い、想うこと
—震災に学び、災害に備える—

- なぜ、東日本大震災の支援活動に参加したのか。
→ 阪神・淡路大震災の体験と教訓
- 東日本大震災の各時期の支援の内容の特徴
- 災害時に何が機能するのか。⇒ 平時から何を準備すべきか。
- 「復興」の今後の展望⇒ 創興の視点が必要

2006年ののどかな雄勝町水浜の風景



宮城県石巻市雄勝町

仙台市から車で約1時間半 女川原発の北のリアス式海岸



あの津波は町の様相を一変させました



2011年3月25日の雄勝町の映像です



20mを越す津波が雄勝を襲いました



この橋の上に津波はかけ上りました



小学校の屋上に家を押し上げました



津波は市立雄勝病院を飲み込みました



- 堤防から15mに位置。
- 津波の直撃で、屋上も飲み込まれる。
- 入院患者40名全員、院長を含めたスタッフ24名が死亡。
- 非番の看護師、訪問看護師等13名が生存。

石巻市内では、大きな船が路上に



そんな中、全国から石巻日赤へ



広島県医師会はJMATを派遣



3月24日広島から宮城へ



JMATに参加した理由

- 私の原点は、1995年1月17日、阪神・淡路大震災の被災体験にあります。
- 当時、神戸市灘区大和町で、被災しました。
- 全国にみなさんに、沢山支援をしていただき、機会があれば、是非とも恩返しをしたいという強い気持ちがありました。
- その震災の体験の中で、学んだことを生かしたいという想いもありました。
- 復興に継続して関わりたいと思っていました。

2階建てアパートが、完全に倒壊



この空間に寝ていました。



気絶していて気が付くと、目の前は屋根



なぜ、怪我也せず、助かったのか

- ・母親から、「家には、しっかりした机を入れておきなさい」ということを言われていました。
- ・鳥取大震災の教訓。「机の隙間で、命が助かった。家が倒れても壊れないような机をいれなさい」 ⇒このアパートに入るときに、8000円の中古のkokyoのスティール机を購入。いつもその横で寝ていた。ここ以外、全て、部屋は倒壊。
- ・過去の教訓に耳を傾けることは大切です。

1943年9月10日鳥取地震

- ・ M7.2 震源浅く、鳥取市で震度6。市中心部は壊滅。全壊率80%以上。死者1083人。岡山市で震度5。
- ・ 1944年12月7日 昭和東南海地震 M7.9 海溝型 津波10m 死・行方不明者1223人
- ・ 1945年1月13日 三河地震 M6.8 直下型 死者だけで3000名を超える。
- ・ 1946年12月21日 昭和南海地震 M8.0 海溝型 死者1330名
- ・ 明治三陸地震→1933年3月3日 M8.1 海溝型 津波28.7m 死・行方不明者 3064名

さて、生き埋めの人をどうやって救出するの



1時間かけて、救出。奇跡的にも無傷。



この震災で神戸大学で39名が亡くなりました。



カナダ政府から寄贈されたテントで、救護所開所

